

神奈川歯科大学

2022（令和4）年度 自己点検・評価報告書（数理データサイエンス AI 抜粋）

初年次教育では、大学基準協会が示す「21世紀型リベラルアーツ教育」として、複合的な課題に対応できる通分野的教育活動の展開を期待する「臨床医科歯科概論」を、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力の育成を期待する「異文化コミュニケーション」と「コミュニケーション入門Ⅰ」を、デジタル社会に対応できる情報通信技術の育成を期待する「数理・データサイエンス・AI」と「情報リテラシー」を、更には継続的な自己改革を展開できる批判的思考力、主体性などの育成を期待する「PBL」を取り入れた。

プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）として、2021年度に教育企画部が発足した。その組織は、本学における教育に係る戦略的な意思決定を行うための学長直轄組織である。学生協働により各種教育内容を見直し、大学における教育の高度化を達成することを目的としている。

本学では1～6年生までの全科目を4つのコース「神奈川歯科大学固有系」「咬合医療系」「社会と歯科医療系」「生命科学口腔病態系」に分けている。とくに数理データサイエンスAIプログラムは、総合歯学教育学講座の教員が科目担当責任者として担当する科目であり、「神奈川歯科大学固有系」に属している。教育企画部構成員を含む3名の「神奈川歯科大学固有系」コース責任者が、本プログラムの授業内容や履修状況をチェックし、改善・進化を図っている。

手法としては、オンデマンド配信を確認、更には学生による授業評価アンケートや学年アンケート等を用い、収集した情報を分析、深く掘り下げPCDAサイクルを回している。